大和小学校

学び合い高め合い意欲的に学ぶ児童の育成

～伝え合い交流する～

Ⅰ　研究の具体的内容

1　「伝え合い交流する」ことをより充実させる授業づくり

（1）研究授業及び研究会

第４学年社会「中央線の開通」　　授業者　野澤　明雄　教諭

助言者　峡東教育事務所　指導主事　柴田　幸也　先生

（2）実践授業及び振り返り

第１学年　算数「どちらが　おおい」　　授業者　岩下　亜希子　教諭

第３学年　音楽「金管楽器の音色を感じ取ろう」

授業者　鈴木　奈津実　教諭

第５学年　算数「直方体や立方体の体積」

授業者　田辺　博幸　教諭

第６学年　国語「この絵，わたしはこう見る」

授業者　大原　純子　教諭

ひまわり学級　第６学年　算数「およその面積」

授業者　滝島　正彦　教諭

2　意欲的に学ぶ学習集団づくり

（1）学習規律の確立

・「学習のきまり」の作成と

・学習規律に関するアンケートの実施と分析

（2）Q-U 調査の分析と対策

・K-13 法による分析と対策

3　学びの基盤となる学習環境づくり

（1）家庭学習の習慣化

・家庭学習に関するアンケートの実施と分析

・自主学習の取り組みについて

Ⅱ　まとめ（成果と課題）

1　授業づくりに関わって

日々の授業の中でも，「伝えあい交流する」手立てを考え，実践を行ってきた，ま

た，研究授業や一人一実践においても，「伝えあい交流する」ことに焦点を絞って行うことができた。共通のテーマがあったため，どの教科でも実践を行うことができ，いろいろな実践を見ることができた。

また，実際に「伝え合い交流する」場面では，それぞれがホワイトボードを使ったり，ワークシートを使ったりしながら交流する手立てを考えてきた。

しかし，児童が自分の意見を言うことに重きを置き，聞くと言うことにまで，意識がむいていない様子が見られる。友達の意見に耳を傾けられるような取り組みをする必要を感じた。

2　学習集団づくりに関わって

Q-Uアンケートを２回実施し，K-13法による分析を行い，児童理解を進めた。２回実施したことで，児童の変容に学級の様子を知ることができた。また，K-１３法を行うことで，多くの人の目でＱ－Ｕの結果を見て，具体的な対策などを話すことができた。それをその後の学校生活を送る中で，実践し，児童に働きかけることができ，よりよい学習集団づくりに活かすことができた。

また「大和小学習のきまり」について２回のアンケートを児童に行い，児童の実態を把握してきた。６つの項目の中で，できていると答えた項目については入れ替えを行い，児童の実態にあった内容にしてきた。

しかし，学習規律が定着してない部分も見られ，今後も引き続き継続して行っていく必要がある。

3　学習環境づくりに関わって

今年度，　家庭学習特に自主学習について取り組んだ。自主学習の手引きを作成し，自主学習のやり方や内容などを児童に周知した。また，オリジナルキャラクター「自学くん」を作成し，自主学習に親しみを持たせるようにした。また，自学掲示板を設置し，アンケート結果を掲示したり，他の児童の参考になるような自学ノートを紹介したりして活用した。上記の取り組みによって，個人の回数の増加や，自主学習の内容の変化が見られた。

しかし，自主学習の取り組み状況の個人差は大きい。自主学習に取り組む児童が決まってきてしまい，意欲がない児童はなかなかやってこない。今後どのように児童の自主学習に対する意欲を持たせていくか課題である。

また，家庭学習に積極的に取り組ませるためには，家庭での生活習慣や時間の使い方などの実態把握や指導が必要であり，家庭との連携が不可欠である。

Ⅲ　成果物

研究授業，実践授業の授業案（ワークシート等も含む）

（研究主任　岩下　亜希子）